

2022年度 年度計画

公立大学法人福岡女子大学

公立大学法人福岡女子大学 2022年度計画

<p>中期目標 1 教育に関する目標</p>	<p>(1) 特色ある教育の展開 ア 学士課程 多元的思考力及びグローバル社会とその課題に対する専門的能力を養成し、併せて国際性を涵養して、多文化共生と持続可能社会の実現に寄与できる女性を育成する。 イ 大学院課程 多様な経験やグローバルな視野を持って国内外で指導的役割を果たすとともに、国際的にも活躍できる高度な専門的能力を備えた人材を育成する。</p> <p>(2) 教育活動の活性化 教育活動を定期的・多角的に評価するとともに、効果的なファカルティ・ディベロップメント等の組織的な取組を推進し、授業内容・方法の改善など全学的な教育力の向上を図る。</p> <p>(3) 意欲ある学生の確保 明確な入学者受入れ方針の下、効果的・戦略的な広報活動の展開、高等学校との連携強化を図り、大学の魅力を広く伝えるとともに、入学者選抜改革を推進し、大学が求める資質・能力を持った学ぶ意欲の高い学生を確保する。</p> <p>(4) 学生支援の充実 ア 学修支援・学生生活支援 留学生や障がいのある学生を含め、多様な学生が自主的・多面的な学修を行い、健康で充実した学生生活を送るため、学修環境の整備や学修・学生生活支援体制の充実・強化を図るとともに、経済的に修学が困難な学生に対する適切な支援を行う。 イ キャリア支援 学生の社会的・職業的自立に向けたキャリア教育に取り組み、就職に関する相談や企業を知る機会の拡充など、就職支援の充実・強化を図る。また、県内の産業界等との連携強化や進学等の希望に対応する支援を行う。</p>
----------------------------	---

中期計画		2022年度計画	2022 ウェイト	通し 番号
項目	実施事項			
<p>1 学士課程</p> <p>国際社会や地域社会の課題に対応できる問題解決力をはじめ、外国語運用能力やコミュニケーションなど「福岡女子大学基礎力」に示す能力を身につけた多文化共生と持続可能社会の実現に貢献できる感性豊かな女性を育成する教育を展開する。</p>	<p>1 【全学的なクォーター制導入による教育の充実及び教育体系の点検・改善】</p> <p>大学の理念に適った人材を育成するため、教育の充実を図るとともに、教育体系の点検・改善を行う。</p> <p>○クォーター制の導入・実施 ○カリキュラムの点検・改善</p> <p><評価指標(指標及び達成目標)> ・クォーター制の導入・実施:H30年度より導入し、H33年度のカリキュラム完成を目指す。</p>	<p>1 【全学的なクォーター制導入による教育の充実及び教育体系の点検・改善】</p> <p>[クォーター制の導入・実施] ①クォーター制導入による教育効果の検証を行うとともに課題や問題点を抽出し、改善に向けて取り組む。</p> <p>[カリキュラムの点検・改善] ②新カリキュラムが、クォーター制を活かし、学生の主体的な学びを支えるカリキュラムになっているか点検し、問題点を抽出する。 ③新カリキュラムに編成したリーダーシップ開発系科目群が「次代の女性リーダーを育成」するための体系的な教育になっているか点検し、課題を共有し改善する。</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標) ・クォーター制の導入・実施:クォーター制の運用実績をふまえ新カリキュラムがこれまでの課題を改善できるものになっているか点検する。</p>	1	1

中期計画		2022年度計画	2022 ウェイト	通し 番号
項目	実施事項			
	<p>2 【英語教育の改善とその促進によるコミュニケーション能力の涵養】</p> <p>全学生を対象とした少人数・習熟度別クラス編成による初年次英語教育と、学科専門教育における英語を用いた授業とを有機的に結びつけることで、国際性の涵養と英語力向上を目的とする学びの場を初年次から高年次に至るまで一貫して提供できる体制を整備する。</p> <p>○科目内容の点検と充実 ○英語による授業の充実 ○課外補習講座(英語セミナー)の充実</p> <p><評価指標(指標及び達成目標)> ・AEP履修者が卒業時まで獲得するTOEFLスコア:入学時からTOEFLスコアが25点以上伸びた学生50%以上(単年) ・英語による授業科目数:現カリキュラムの充実・完成を優先し、年度計画で設定 ・英語セミナー(文法・リーディング・リスニング)の科目数・参加学生数:年度計画で設定</p>	<p>1 【英語教育の改善とその促進によるコミュニケーション能力の涵養】 【科目内容の点検と充実】</p> <p>①学術・キャリア英語プログラム(ACE)※に関して、教員による学生指導(個別指導・相談)の時間を確保し、学習習慣の形成と継続ができるような指導体制をとる。 ②新しく導入するACEでは既成のテキストに加え、本学独自の教育内容を反映した自主教材を作成し、2022年後期からの運用開始を目指す。2023年に向け、その教材について受講学生や教員等から意見を聞き、改善を図る。 ③AEP(2年生)・ACE(1年生)履修者に対し年2回のTOEFL受験を課し、英語教育の成果を検証する。 ④AEPでは、最終課題としての15分程度の英語プレゼンテーション、2,000語程度の英語エッセイについて、履修者全員が発表・提出できるように、個別指導を行う。</p> <p>【英語による授業の充実】</p> <p>⑤授業アンケートや学生の意識調査等により、学生のニーズを分析するとともに、ACEと学科専門とを繋ぐ「上級英語」(2023年度開講予定)の内容を精査・準備する。 ⑥新たに設置した言語教育センターの機能の一環として、英語教育の一層の充実を図る。</p> <p>【課外補習講座(英語セミナー)の充実】</p> <p>⑦学生に自律的な複数の学習機会を提供する。</p> <p>※「学術・キャリア英語プログラム(ACE)」とは…新カリキュラムでは、従来の「学術英語」に特化した内容(AEP)から、時代と社会の要請に応えた発信型の「学術的な英語及び生涯学習も含むキャリア英語」へと転換する。</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標) ・AEP履修者が卒業時まで獲得するTOEFLスコア:入学時からTOEFLスコアが25点以上伸びた学生50%以上 ・ACE履修者が入学時から1学年末までに獲得するTOEFLスコア:25点以上の伸び30%以上 ・英語による授業科目数:10科目 ・英語セミナーの科目数・参加学生数:100名以上</p>	2	2
	<p>3 【実践的能力を養成する体験学習の充実】</p> <p>実社会が持つ様々な課題への取組やフィールドワーク等を通じて、大学での学びの意味と意義とを見出させ、社会で生きるための実践的能力を養成する体験学習を将来的な必須化を見据えて充実させるとともに、専門教育における学外学修活動を推進する。</p> <p>○体験学習・学外学修プログラムの充実 ○体験学習の手法を取り入れた科目の充実</p> <p><評価指標(指標及び達成目標)> ・体験学習・学外学修プログラム参加学生数(国内・海外):年延べ60名以上(単年) ・体験学習の手法を取り入れた科目数:年度計画で設定</p>	<p>1 【実践的能力を養成する体験学習の充実】 【体験学習・学外学修プログラムの充実】</p> <p>①FWU COMPASS「体験的学習」(正課・準正課)と、新カリキュラム共通教育「リーダーシップ開発系」科目について、教職員の共通理解を図りながら展開する。 ②キャンパス見学&相談会での発信、大学ホームページ(HP)や大学案内等広報素材での周知を行う。</p> <p>【体験学習の手法を取り入れた科目の充実】</p> <p>③新カリキュラム共通教育「リーダーシップ開発系」科目の展開と点検・改善を行う。</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標) ・体験学習・学外学修プログラム参加学生数(国内・海外):延べ50名以上(コロナ禍によりプログラム数や実施内容に制限があるため) ・体験学習の手法を取り入れた科目数:体験学習科目8科目(地域共創論、体験学習Ⅰ～Ⅳ・海外体験学習Ⅰ～Ⅲ10プログラム) ・ファカルティ・ディベロップメント(FD)及びスタッフ・ディベロップメント(SD)研修1回</p>	1	3

中期計画		2022年度計画	2022 ウェイト	通し 番号
項目	実施事項			
	<p>4 【女性リーダー育成教育の推進】</p> <p>百周年記念事業の一環として新たに設置する「女性リーダーシップセンター」との連携の下、女性リーダー科目の提供などを通じて、学生のリーダーシップ向上とキャリア形成とを促すとともに、建学の精神である次代の女性リーダー育成に取り組む。</p> <p>○女性リーダー育成関連科目の内容の充実 ○リーダーシップ向上を目的とした学内委員会への学生の参画推進</p> <p><評価指標(指標及び達成目標)> ・女性リーダー育成科目開設数:年5科目以上(単年) ・学内委員会参加学生数:年延べ10名以上(単年)</p>	<p>1 【女性リーダー育成教育の推進】 【女性リーダー育成関連科目の内容の充実】</p> <p>①新カリキュラム共通教育「リーダーシップ開発系」科目間の連携を図り、グローバルリーダー専攻プログラムを開始する。 ②女性リーダーシップセンターの社会人セミナー修了生を講師として招き、実社会で活躍する女性たちの経験を学ぶ機会を提供する。</p> <p>【リーダーシップ向上を目的とした学内委員会への学生の参画推進】 ③学生委員の活動を「FWU COMPASS(体験的学習)」と関連付け展開する。 ④学生委員としての目的意識の醸成を図る。また、学生委員相互の交流を促進する(キックオフ、中間チェックイン、総括ミーティング、学外ゲストを迎える/語り合う機会等を設ける)。 ⑤活動成果を発信する機会を設ける。 ⑥準正課、課外活動を担う学内各部署の連携を深め、学生のリーダーシップ向上について検討する。</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標) ・女性リーダー育成科目開設数:リーダーシップ開発系17科目(リーダーシップ開発科目9科目、体験学習科目8科目(地域共創論、体験学習Ⅰ～Ⅳ・海外体験学習Ⅰ～Ⅲ10プログラム)) ・学内委員会参加学生数:延べ10名以上</p>	1	4
	<p>5 【国際性豊かな学習環境の提供】</p> <p>海外有力大学から受け入れる優秀な留学生との交流機会を提供し、世界各国の優秀かつ多様な学生と共に切磋琢磨して学ぶ環境を充実させる。また、海外派遣留学プログラムの実施により、日本人学生に海外大学の教育を享受する機会を提供し、国際感覚と異文化理解力を醸成する。</p> <p>○短期留学生受入プログラムの実施・拡充 ○短期海外留学プログラム(交換留学・体験学習・語学研修)の実施・拡充 ○学内での海外留学体験プログラムの実施・拡充 ○JD-Matesプログラムによる外国人留学生との交流の実施・拡充 ○イングリッシュ・ビレッジ(留学生と共に参加する英語合宿)の実施・拡充</p> <p><評価指標(指標及び達成目標)> ・短期受入留学生数:年35名以上(単年) ・海外派遣(交換留学・語学研修・体験学習等)学生数:年120名以上(単年)</p>	<p>1 【国際性豊かな学習環境の提供】 【短期留学生受入プログラムの実施・拡充】</p> <p>①The World of Japanese Contemporary Culture Program (WJC)の参加大学の多様化を図る。コロナ禍により留学生受入れ不可の場合は、WJC科目のオンライン開講等により教育形態の多様化を図る。 ②国際共同教育(CASEUFサマープログラム、EATプログラム)を実施する。コロナ禍により留学生受入れ不可の場合は、オンライン開講等により教育形態の多様化を図る。 ③プログラムの検証、改善を行う。</p> <p>【短期海外留学プログラム(交換留学・体験学習・語学研修)の実施・拡充】 ④学生交流協定に基づく交換留学(派遣)を推進する。コロナ禍により学生を派遣できない場合は、協定校等がオンラインで実施する教育プログラムや国際会議等への参加を推進する。 ⑤短期語学文化研修及び海外体験学習を実施・拡充する。コロナ禍により学生を派遣できない場合は、協定校等がオンラインで実施する教育プログラムや国際会議等への参加を推進する。 ⑥学生に対し、海外留学に関するきめ細かなサポートを提供する(情報提供、留学相談、指導等)。</p> <p>【学内での海外留学体験プログラムの実施・拡充】 ⑦CASEUFサマープログラム等により、外国人留学生と日本人学生が共学する環境を創出する。コロナ禍によりプログラムを実施できない場合は、協定校等がオンラインで実施する教育プログラムや国際会議等への参加を推進する。 ⑧WJC科目(英語を教育言語とする)を在学学生に開放し、履修・聴講を奨励する。コロナ禍によりWJCを通常通り実施できない場合は、オンラインで開講するWJC科目の履修・聴講を奨励する。</p>	1	5

中期計画		2022年度計画	2022 ウェイト	通し 番号
項目	実施事項			
		<p>[JD-Matesプログラムによる外国人留学生との交流の実施・拡充] ⑨外国人留学生との交流を促進し、在学生の異文化適応力を醸成する。</p> <p>[イングリッシュ・ビレッジ(留学生と共に参加する英語合宿)の実施・拡充] ⑩年2回(前期・後期)実施する。対面で実施できない場合は、オンラインとする。 ⑪内容の検証、改善を行う。</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標) ・短期受入留学生数: ・受入可能となった場合:35名以上 ・受入不可の場合:オンライン開講科目受講者数35名以上 ・海外派遣(交換留学・語学研修・体験学習等)学生数: ・派遣可能となった場合:120名以上 ・派遣不可の場合:学内実施事業(留学説明会、留学相談会及びオンライン海外研修等)の参加者数120名以上</p>		
	<p>6 【社会性・感性を涵養する学習環境の整備】</p> <p>留学生や日本人学生と共同生活を送りながらコミュニケーション能力及び国際性・社会性を磨く全寮制教育の体制、豊かな人間性を涵養する感性教育の整備・充実を図る。</p> <p>○教育の場としての寮体制の整備・充実 ○感性教育の導入と環境の整備</p> <p><評価指標(指標及び達成目標)> ・学生による寮活動実施回数:年度計画で設定 ・うち、コミュニケーション能力・異文化理解力の向上を目的とする寮活動:年度計画で設定 ・感性教育の導入・実施:年度計画で設定</p>	<p>1 【社会性・感性を涵養する学習環境の整備】 【教育の場としての寮体制の整備・充実】 ①学生が主体的に活動できるよう教職員が支援する。また、活動内容を「福岡女子大学基礎力」と関連させ、質の向上を図る。</p> <p>【感性教育の導入と環境の整備】 ②「感性を学ぶ」の授業に「アートシンキング=アーティスト的思考法」を加え、一層の充実を図る。 ③授業において、本学美術館収蔵作品並びに展示空間を活用し、理論と応用(実践)の展開を図る。 ④寮教育部門や美術館部門との連携を通して、鑑賞会など感性の育みに繋がる場を企画する。</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標) ・学生主体の寮活動実施回数:20回 ・うち、コミュニケーション能力・異文化理解力の向上を目的とする寮活動:12回 ・感性教育の導入・実施:授業の開講1科目</p>	2	6

中期計画		2022年度計画	2022 ウェイト	通し 番号
項目	実施事項			
	<p>7 【文理統合型教育の推進】</p> <p>社会の課題解決に貢献できる能力を養成するため、文理の知識を総合・活用して対象にアプローチする文理統合型教育を推進する。文理統合型の要素を取り入れた科目を提供するとともに副専攻制度等の分野横断的な幅広い学びのしつこみを充実させることで、学生及び社会が求める多様な学びへの対応を図る。</p> <p>○文理統合型教育の推進 ○副専攻制度の拡充</p> <p><評価指標(指標及び達成目標)> ・文理統合型教育の要素を導入している科目数:年度計画で設定 ・卒業時における副専攻認定者数:年度計画で設定</p>	<p>1 【文理統合型教育の推進】 【文理統合型教育の推進】</p> <p>①新カリキュラムに「文理統合」を掲げる本学の理念を体現する科目として「文理統合科目Ⅰ～Ⅲ」を新たに設け、SDGsの17のゴールについての諸課題をテーマにし、学部教員全員が担当者となり、年度ごとに相応しい組み合わせを得て、授業を担当する。 ②「文理統合科目Ⅰ～Ⅲ」が、ディプロマ・ポリシー(DP)に沿った内容になるよう科目担当者FDを通して整備・充実を図る。 ③新入生オリエンテーションにおいて「国際文学講究」の目標や授業概要を説明し、受講を促す。</p> <p>【副専攻制度の拡充】 現状の副専攻運用の課題を踏まえ、以下の通り副専攻の目的や内容について教職員・学生の理解を深める機会を設け、学生の学びを充実させる。 ④新カリキュラムに新設した副専攻プログラム「グローバルリーダー」について、教職員間の共通理解を図る。 ⑤新入生オリエンテーションにおいて副専攻プログラムの目的や内容について説明し、制度の理解を促す。さらに、アカデミック・アドバイザー(AA)、カリキュラム・アドバイザー(CA)による学生の個人面談を通じて、副専攻プログラムの履修を学生に促す。</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標) ・文理統合型教育の要素を導入している科目数:6科目以上(2023年度文理統合科目と国際文学講究のプログラム数) ・卒業時における副専攻認定者数:15名</p>	2	7
	<p>8 【国際教養学科の教育の充実】</p> <p>国内外の幅広い分野で活躍できる国際性を身につけた人材を育成するため、人文科学・社会科学を中心とする専門科目群を提供して専門的知識・技術を深めさせるとともに、学生の関心や専門との関連性に応じた学際的・分野横断的な履修を促すことで、多元的な視野の確保と柔軟な思考力の養成とを図る。併せて、多文化を理解する力(多元的理解力)と外国語コミュニケーション能力とを涵養する。</p> <p>○学生の関心に沿った主体的学修を可能にするカリキュラムの提供 ○卒業研究の充実</p>	<p>1 【国際教養学科の教育の充実】 【学生の関心に沿った主体的学修を可能にするカリキュラムの提供】</p> <p>①新カリキュラムの運用において、学生がより計画的・主体的に履修できるように、専門領域の多様性を活かした教育の充実を図る。 ②クォーター制を活かして効果的で効率的な授業となるよう改善に取り組む。 ③2年次におけるコース選択及び3年次の演習指導教員の選択に関して、きめ細かな指導と円滑な実施を図り、学生の専門領域選択の支援を充実させ、教育効果の向上を図る。 ④学際的、横断的な学びを推奨し、学生の副専攻の履修について広範な指導を行う。</p> <p>【卒業研究の充実】 ⑤年間を通じた卒業研究計画を学生主体で作成し、かつ質の高い卒業研究が行われるように各教員で指導を徹底する。 ⑥提出された卒業論文について、主査・副査の厳格な卒業論文の評価を行い、最終的に教員全体で成績評価を承認する。 ⑦DPIに基づいて、学科会議で卒業予定者全員の履修単位等を確認し、卒業認定を行う。 ⑧4年生だけでなく、下級生にも卒業研究発表会への積極的な参加を指導する。 ⑨卒業研究発表会のあり方を、2021年度の実施状況に照らし改善する。</p>	1	8

中期計画		2022年度計画	2022 ウエイト	通し 番号
項目	実施事項			
	<p>9 【環境科学科の教育の充実】</p> <p>持続可能社会・環境調和型社会の実現に貢献できる人材を育成するため、自然科学・社会科学を中心とする専門科目群を提供して専門的知識・技術を深めさせるとともに、学生の関心や専門との関連性に応じた学際的・分野横断的な履修を促し、柔軟な思考力、応用力のほか国際性を涵養することで、身近な生活の問題から国際化する現代の複雑な環境問題に至るまで幅広く対応できる能力を養成する。</p> <p>○学生の関心に沿った主体的学修を可能にするカリキュラムの提供 ○卒業研究の充実</p>	<p>1 【環境科学科の教育の充実】</p> <p>【学生の関心に沿った主体的学修を可能にするカリキュラムの提供】</p> <p>①2022年度から適用する新カリキュラムに沿って、学生がより計画的・主体的に履修できるように指導する。 ②ICT教育の充実を図るとともに、アクティブラーニングの要素を各科目において積極的に導入する。 ③学科カリキュラムの評価・改善を推進する。</p> <p>【卒業研究の充実】</p> <p>④これまでの卒業研究に関する情報を低学年時の段階から提供し、学生自身が卒業研究をデザインすることを促す。 ⑤年間を通じた卒業研究の計画を学生自身で立て、かつ質の高い卒業研究が行われるように各研究室で指導を徹底する。 ⑥DPIに基づいた主査・副査の厳格な卒業研究の評価及び卒業認定を行う。 ⑦自身の研究の新規性、そして議論(考察)の論理性を意識した卒業研究を促し、卒業論文の内容の充実を図る。</p>	1	9
	<p>10 【食・健康学科の教育の充実】</p> <p>生命の根本に関わる「食と健康」の問題解決に貢献できる人材を育成するため、食のグローバル化に対応する国際性の涵養と、「食と健康」とに関する専門的な知識・技能の習得を図り、食と人間との関係をめぐる諸問題に多角的かつ専門的に対応できる能力を養成する。</p> <p>○管理栄養士養成課程の充実 ○卒業研究の充実</p> <p><評価指標(指標及び達成目標)> ・管理栄養士国家試験合格率:全国平均以上(単年) ※過年度生・留学生を除く</p>	<p>1 【食・健康学科の教育の充実】</p> <p>【管理栄養士養成課程の充実】</p> <p>①専門性の高い管理栄養士養成のため、実験・実習・卒業研究に不可欠な機器等の充実と更新に努め、専門教育の質の維持・向上を図る。 ②新カリキュラムの実施に伴う問題点の洗い出しと解決を行い、カリキュラムの円滑な移行を行う。 ③カリキュラム・ポリシー(CP)及び管理栄養士国家試験出題基準(ガイドライン)に基づいた授業の内容になっているか自己点検・評価を行い、授業内容の調整・改善を行う。 ④管理栄養士国家試験の合格率を維持するため、適宜適切な国試対策講座及び年間6回を目標に模擬試験を実施する。</p> <p>【卒業研究の充実】</p> <p>⑤学生の研究室選択・研究テーマ選択の支援(情報提供、研究内容についての相談の機会の設定等)を実施・検証し、改善・充実を図る。 ⑥卒業論文と卒業研究発表会のあり方を、2021年度の実施状況を自己点検・評価し改善する。 ⑦客観性のある評価項目・基準に基づいた卒業論文・卒業研究演習の成績評価を行い、DPIに基づいた卒業認定を行う。 ⑧4年生だけでなく、1～3年生にも卒業研究発表会への参加(聴講)を促し、討論に参加するよう指導する。</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標) ・管理栄養士国家試験合格率:全国平均以上(外国人留学生を除く)</p>	1	10

中期計画		2022年度計画	2022 ウエイト	通し 番号
項目	実施事項			
2 大学院課程 国内外の様々な分野においてリーダー的役割を担うことができる国際性と高度な専門性を養成する。	1 【グローバル社会に対応した高度な専門的能力の養成】 人文社会科学研究科では、言語文化と社会科学の2つの専攻に設定された専門科目群の履修を通じて、高度な専門的知識の獲得と研究能力の向上を図る。人間環境科学研究科では、3つの領域に配置された専門科目群を通じて高度な専門的知識を獲得させるとともに、独創性と先端性に優れた研究を可能とする能力を養成する。 ○専門教育の基盤となる科目の提供 ○人文社会科学研究科の教育の充実 ○人間環境科学研究科の教育の充実	1 【グローバル社会に対応した高度な専門的能力の養成】 〔専門教育の基盤となる科目の提供〕〔人文社会科学研究科の教育の充実〕 ①各専攻のCPに照らし、基本科目及び専門科目の履修を経て、高度な専門知識を獲得させる。 ②博士前期課程と博士後期課程が合同で演習や研究発表等を実施することにより、有機的な連携を図り、大学院生の視野を広げる。 ③大学院生のニーズに合った研究指導を行い、研究能力を向上させる。 ④コロナ禍を踏まえ、対策を十分講じ、教育と研究活動を行う。 〔専門教育の基盤となる科目の提供〕〔人間環境科学研究科の教育の充実〕 ⑤博士前期課程において、3領域横断の科目を設定し、研究を推進するための基盤的能力を形成させる。また、博士後期課程において、学術文献の講読を通して最先端の情報や研究手法を獲得させる。 ⑥博士前期課程では、3領域それぞれの専門科目として各種特論や特別演習で高度な専門知識と活用能力を養う。また、博士前期課程では「特別研究」、博士後期課程では「特殊研究」における研究活動によって、研究を推進するための実行力を養成する。	1	11
	2 【学際的な教育研究の実施】 研究の倫理観と国際的な感性とを併せ持ち、広い視野から独創的な研究を行うことができる人材を育成するため、専攻横断的な視点や、複数の専門領域から得られる知識を総合・活用するなど、学際的なないし文理統合型の教育研究を実施・展開する。	1 【学際的な教育研究の実施】 (人文社会科学研究科) ①「研究の倫理と方法」を全員履修することにより研究倫理と方法を身に付け、独創的研究能力を向上させる。 ②言語文化専攻の「総合演習」及び社会科学専攻の「国際演習」において、学際的な教育研究を実施する。 (人間環境科学研究科) ③研究科共通科目である「研究の倫理と方法」の履修により、倫理観の醸成を図る。また、文系(人文社会科学研究科)と理系(人間環境科学研究科)の学生によるグループ討議等を通して幅広い視点を形成させる。	1	12
	3 【国内外での学外学修活動の充実】 国内外での様々な分野において専門的立場からリーダー的役割を果たすことができる実践的能力を養成するため、国内外での学外学修活動を関係機関の協力を得て充実させるとともに、研究遂行のために求められる国際的な感性の涵養とコミュニケーション能力の向上を図る。 <評価指標(指標及び達成目標)> ・学外学修プログラム参加学生数(国内・海外)(大学院):年延べ5名以上(単年)	1 【国内外での学外学修活動の充実】 (人文社会科学研究科) ①「国際研究活動」等を通じて、国際的に活躍する高度専門人材を育成する。 ②協定校の大学院生や公的機関等の研修生との交流を通じて、学生の実践能力とコミュニケーション能力を向上させる。 (人間環境科学研究科) ③博士前期課程の「国際研究活動」等や博士後期課程の「専門職特殊研修」等を通して、国内外での学外学修活動を積極的に推進する。また、学生が学会発表や論文執筆等も積極的に行うように指導する。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・学外学修プログラム参加学生数(国内・海外)(大学院):延べ2名以上〔両研究科合計〕 (コロナ禍による制限があるため)	1	13

中期計画		2022年度計画	2022 ウェイト	通し 番号
項目	実施事項			
3 教育活動の活性化 教職員が協働して教育体制の整備・改善に努めるとともに、教育の質の向上を図るための全学的な取組を教育・学習支援センターを中心に展開する。	1 【教育内容の検証と課題の把握・改善】 学修ポートフォリオやカリキュラム・マトリックス、学生との履修相談や学生による授業アンケートなどを通じて、教育内容の検証を行い、課題の把握とその改善に努める。 ○学修ポートフォリオ及びカリキュラムマトリックス、授業アンケート ○学生との履修相談 <評価指標(指標及び達成目標)> ・学生による授業アンケート回収の改善とその活用:年度計画で設定	1 【教育内容の検証と課題の把握・改善】 〔学修ポートフォリオ及びカリキュラム・マトリックス、授業アンケート〕 ①学修ポートフォリオモニター制度を導入して、モニターを通じて改善すべき点をさらに洗い出すとともに、改修案をまとめる。 ②授業アンケート結果やカリキュラム・マトリックス等の情報を活用して、「福岡女子大学基礎力」が養成されているか分析を行う。 ③新設科目・新設科目群を中心に、シラバスの内容や「福岡女子大学基礎力」を点検・検証する。 ④シラバスや授業アンケート結果等に基づいて、新カリキュラムの進行状況について点検・検証する。 〔学生との履修相談等〕 ⑤学年暦で指定されたスケジュールに従い、AA面談を適切に実施する。 ⑥学生の要望に応じて、随時、AA面談を実施し、学生の履修相談に対応する。 ⑦学修状況の記録のため、学生に学修ポートフォリオの記入を促す。 ⑧AA・ファーストイヤー・ゼミ(FYS)担当者会議等を通じて、相談で把握された履修制度上の課題やAA・FYSシステムの課題を共有し、改善に役立てる。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・学生による授業アンケート回収の改善とその活用: ・授業アンケートの実施:4回 ・授業アンケート結果の蓄積・教員へのフィードバック:3回	1	14
	2 【計画性を持った効果的なFDの実施】 教育内容の検証を踏まえ、年度計画に基づいたFDを実施し、教育の改善と質の向上を図る。 <評価指標(指標及び達成目標)> ・FDの実施回数:年5回以上(単年)	1 【計画性を持った効果的なFDの実施】 ①年間の研修計画を立て、計画的に実施する。 ②全教職員を対象とする研修及びテーマや対象者を絞り個別課題に対応する研修を実施する。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・FDの実施回数:5回以上	1	15

中期計画		2022年度計画	2022 ウェイト	通し 番号
項目	実施事項			
4 意欲ある学生の確保 大学のアドミッション・ポリシーに適った意欲の高い学生を確保するため、国内外において高校・日本語教育機関とも連携を図りながら戦略的に募集広報活動を展開するとともに、入学者選抜改革を推進する。	1 【入学者選抜改革の推進】 大学のアドミッション・ポリシーに適った高い意欲と基本的な学力を有した国内外の優秀かつ多様な学生を確保するため、高大接続システム改革に基づき入学者選抜改革を推進する。 ○入学者選抜方法の策定・公表 ○入学者選抜の実施・改善	1 【入学者選抜改革の推進】 【入学者選抜方法の策定・公表】 ①2023年度入学者選抜について、募集要項において選抜方法を公表する。 ②新学習指導要領に対応した入学者選抜(2024年度実施)における本学の選抜方法を公表する。 【入学者選抜の実施・改善】 ③2021年度に実施した入試を踏まえ、運営に係る課題の抽出、業務の改善・見直しを行い、公平・公正な入試の実施と業務の効率化を図る。	1	16
	2 【国内外における戦略的な募集広報活動の展開】 国内外の優秀かつ多様な学生を確保するため、各種メディアや大学案内等の活用、オープンキャンパスや高校訪問の実施、海外における留学フェアへの参加等、積極的な募集広報活動を展開する。また、国内外での知名度・存在感の向上のため、国内外の高校・日本語教育機関との連携を推進する。 (国内広報) ○各種メディア、ホームページ、大学案内等の活用 ○オープンキャンパス、キャンパス見学&相談会の実施、進学相談会への参加 ○高校訪問、国内の日本語教育機関訪問の実施 (海外広報) ○ホームページ・大学案内等の活用と英語化促進(必要に応じ多言語化) ○留学フェアへの参加 ○海外の高校、日本語教育機関訪問の実施 (共通) ○インターネット出願による利便性向上及び制度の周知 <評価指標(指標及び達成目標)> ・学内イベント(オープンキャンパス・キャンパス見学&相談会)参加者数:年2,000名以上(単年) ・学内イベント参加者満足度:年80%以上(単年) ・高校・日本語教育機関訪問数(国内・海外):年150件以上(単年) ・進学説明会参加回数(国内・海外):年45件以上(単年) ・外国人留学生 入学者の出身国・地域数:3ヶ国以上(単年) ・学生意識調査における「積極的第一志望での入学」率:50%以上(単年)	1 【国内外における戦略的な募集広報活動の展開】 【各種メディア、ホームページ、大学案内等の活用】 ①各種メディアを活用し、メインターゲットの高校生に加え、関係者(保護者及び高校教員)も対象にした広報活動を行う。 【オープンキャンパス、キャンパス見学&相談会の実施、進学相談会への参加】 ②オープンキャンパス等の学内イベントを実施するとともに、学外で開催される進学相談会に参加する(コロナ禍に応じて、オンラインでの開催・参加とする)。 【高校訪問、国内の日本語教育機関訪問の実施】 ③コロナ禍に応じて、国内の高校及び日本語教育機関に対し、広報活動を行う。 【ホームページ・大学案内等の活用と英語化促進(必要に応じ多言語化)】 ④留学生に向けた英語等のパンフレットを作成する。 【留学フェアへの参加】 ⑤コロナ禍に応じて、海外で実施される留学フェアに参加する。 【海外の高校、日本語教育機関訪問の実施】 ⑥コロナ禍に応じて、海外の高校、日本語教育機関を訪問する。渡航が難しい場合は、オンラインでの説明会を実施する。 【インターネット出願による利便性向上及び制度の周知】 ⑦インターネット出願の検証及び改善を検討し、利便性の向上を図る。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・学内イベント(オープンキャンパス・キャンパス見学&相談会)参加者数: 通常開催した場合(事前予約不要、人数制限無):2,000名以上 感染症予防対策を行ったイベントを開催した場合(要事前予約、人数制限有):400名以上 ・学内イベント参加者満足度:年80%以上 ・高校・日本語教育機関訪問数(国内・海外):(コロナ禍でない場合)150件以上 ・進学説明会参加回数(国内・海外):(コロナ禍でない場合)45件以上 ・外国人留学生 入学者の出身国・地域数:3ヶ国以上 ・学生意識調査における「積極的第一志望での入学」率:50%以上	1	17

中期計画		2022年度計画	2022 ウェイト	通し 番号
項目	実施事項			
	<p>3 【大学院入学確保のための募集広報活動の展開】</p> <p>大学院のアドミッション・ポリシーに適った意欲の高い学生を確保するため、国内外において戦略的に募集広報活動を展開する。</p> <p>○パンフレット等募集広報ツールの作成 ○大学院説明会の開催 ○国内外の留学生対象進学説明会への参加</p> <p><評価指標(指標及び達成目標)> ・大学院説明会の開催数:1回以上(単年) ・留学生対象進学説明会参加回数(国内・海外):年4件以上(単年)</p>	<p>1 【大学院入学確保のための募集広報活動の展開】</p> <p>【パンフレット等募集広報ツールの作成】 ①パンフレットを作成するとともに、大学HPやウェブ媒体を活用し広報活動を行う。</p> <p>【大学院説明会の開催】 ②コロナ禍に応じて、オンラインツール等を活用しながら説明会を行う。</p> <p>【国内外の留学生対象進学説明会への参加】 ③コロナ禍に応じて、国内外で開催される留学生対象の進学説明会に参加する。</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標) ・大学院説明会の開催数:1回以上 ・留学生対象進学説明会参加回数(国内・海外):年4件以上</p>	1	18
<p>5 学修支援・学生生活支援</p> <p>主体的な学びを促す体制を整備するとともに、健康で充実した大学生活を送ることができるように、ダイバーシティ推進の観点を踏まえ多方面にわたり学生の支援に取り組む。</p>	<p>1 【主体的学修支援の強化】</p> <p>入学から卒業に至るまでの一貫した学修指導・助言及び学生個々に応じたきめ細かな履修指導ができる体制の充実を教職協働で図るとともに、新校舎の設備を活かした自主学習環境の一層の充実努める。</p> <p>○学修ポートフォリオやカリキュラム・マトリックス等による、主体的学修支援のための環境整備 ○アカデミック・アドバイザーシステムや各学科・各コース、教職協働組織である教育・学習支援センターなどを中心とする学修指導・助言体制の充実 ○ラーニングcommonsや共同研究室などの新校舎内における自主学習環境の充実</p>	<p>1 【主体的学修支援の強化】</p> <p>【学修ポートフォリオやカリキュラム・マトリックス等による、主体的学修支援のための環境整備】 ①関係部署が連携し、初年次における学修ポートフォリオの活用を促す。 ②2年次以上の定期面談の確実な実施を図るとともに、学修ポートフォリオの活用を促す。 ③授業アンケートや学修ポートフォリオを通じて授業外学習時間を検証し、自主学習推進のためにオンラインでの学習環境の点検・整備に努める。</p> <p>【アカデミック・アドバイザーシステムや各学科・各コース、教職協働組織である教育・学習支援センターなどを中心とする学修指導・助言体制の充実】 ④定期的に学生面談を実施し、学生の主体的な学びを支援する。 ⑤FYSや面談時に学修ポートフォリオの活用を促す。 ⑥入学時から卒業時までの一貫した学修支援体制を担保するため、低年次AAから演習担当教員、卒業論文指導教員への担当引き継ぎを徹底する。 ⑦チュードレント・アシスタント制度を検証し、支援体制を見直す。</p> <p>【ラーニングcommons(※)や共同研究室などの新校舎内における自主学習環境の充実】 ⑧ラーニングcommons、共同研究室、自主学習スペース各々の利用状況の検証と改善点についての洗い出しを、図書館ラーニングcommonsと連携して進める。</p> <p>※「ラーニングcommons」とは… 学生や教職員が集まり、図書館の情報資源を用いて議論を進めていく協働学習の「場」を提供するものである。本学では図書館1階に設けられており、本学の学生又は教職員が学習グループ・イベント等の主催者である場合に限り、学外者の利用も可能とされている。</p>	1	19

中期計画		2022年度計画	2022 ウェイト	通し 番号
項目	実施事項			
	<p>2 【学生生活支援体制の充実】</p> <p>学生の健康管理に努めるとともに、充実した大学生活を送ることができるための支援体制の整備を教職協働で推進する。</p> <p>○スモークフリーキャンパスの実現 ○サークル等課外活動に対する支援の充実 ○保健室・学生相談体制の充実 ○ハラスメントフリーに向けた取組</p> <p><評価指標(指標及び達成目標)> ・スモークフリーキャンパスの実現: キャンパスの全面禁煙化</p>	<p>1 【学生生活支援体制の充実】</p> <p>〔スモークフリーキャンパスの実現〕 ①保健室において禁煙相談対応を行う。 ②キャンパスの全面禁煙について、メールやポスター等により学内外に周知する。 ③職場巡視、清掃等における吸殻チェックを行う。</p> <p>〔サークル等課外活動に対する支援の充実〕 ④感染対策を講じながら安全なサークル等課外活動を支援する。また、学生が積極的、自発的にサークル活動に関われるよう支援の充実を図る。</p> <p>〔保健室・学生相談体制の充実〕 ⑤健康づくり情報の発信を通して、感染症予防や自身の健康管理についての意識を高める。 ⑥定期健康診断時の健康調査と保健面談を実施し、メンタル不調の学生の早期発見と支援に繋げる。 ⑦オンラインと対面での面談を継続し、相談体制の充実を図る。 ⑧学生からの相談内容に応じて適切な部署に繋げるよう学内で連携を図る。</p> <p>〔ハラスメントフリーに向けた取組〕 ⑨新入生オリエンテーション等の機会を捉え、ハラスメント相談制度などハラスメント防止の仕組みについて周知する。 ⑩ハラスメント相談員名簿等を学内各所に掲示する他、Moodleに制度の概略や相談員名簿を掲載して周知を図る。</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標) ・学内での吸殻発見の件数0件 ・禁煙相談を受けた場合は、当該相談者の禁煙継続</p>	1	20
6 キャリア形成の支援	<p>1 【キャリア教育の充実】</p> <p>学生の社会的・職業的自立に向け、女性リーダーシップセンターの活用を含め、初年次からの体系的なキャリア教育やキャリアについて考える機会を提供する。</p> <p>○教育体制の整備と部門間の連携強化(教職員・学外関係者等によるキャリア教育の実施。AAやゼミ教員、留学・インターンシップ・体験学習等に関わる教職員の連携) ○国内外のインターンシップや体験学習等のプログラム充実 ○大学の教育内容との連携(リーダーシップ、国際性、環境や食に関する知識のキャリアへの活用促進)</p>	<p>1 【キャリア教育の充実】</p> <p>〔教育体制の整備と部門間の連携強化(教職員・学外関係者等によるキャリア教育の実施。AAやゼミ教員、留学・インターンシップ・体験学習等に関わる教職員の連携)〕 ①情報共有と意思疎通を図るための部門間連絡会議を開催する。</p> <p>〔国内外のインターンシップや体験学習等のプログラム充実〕 ②新カリキュラム共通教育「リーダーシップ開発系」科目内での科目間連携を図る。 ③準正課での体験的学習との連携を図る。</p> <p>〔大学の教育内容との連携(リーダーシップ、国際性、環境や食に関する知識のキャリアへの活用促進)〕 ④各部署/授業が開催するイベントや講演会で可能なものは広く学内に公開となるよう協力を依頼する。</p>	1	21

中期計画		2022年度計画	2022 ウェイト	通し 番号
項目	実施事項			
	<p>2 【就職支援体制の強化】</p> <p>きめ細かな個別相談体制や企業を知る機会、就職先の充実を図り、個々の学生に応じたキャリア形成を支援する。</p> <p>○全学生との面談、就職希望の把握 ○企業訪問による就職先の開拓 ○企業説明会の実施 ○産業界等との連携や留学生向けの就職先の開拓等、本学の特色に応じた支援の実施 ○学生の卒業後調査による就職満足度の確認、就職先の現状把握</p> <p><評価指標(指標及び達成目標)> ・企業訪問・来訪数:年50社以上(単年) ・企業説明会参加企業数:年35社以上(単年) ・就職率:全国平均以上(単年)</p>	<p>1 【就職支援体制の強化】</p> <p>【全学生との面談、就職希望の把握】 ①3年生を対象に全学生の個別面談を実施する。進路及び就職支援の必要性を確認し、学生一人ひとりに応じた支援を行う。</p> <p>【企業訪問による就職先の開拓】 ②企業訪問を行い(オンラインを含む)、就職先を開拓するとともに、大学内での企業説明会、業界説明会等への参加を依頼する。また、本学へ来訪する企業に対し本学の特色や取り組みを説明し、学生の就職へと繋げる。</p> <p>【企業説明会の実施】 ③業界を理解するための業界研究セミナーと個別企業による企業説明会を実施する。また仕事理解を深めるため、本学卒業生(OG)との座談会を開催する。</p> <p>【産業界等との連携や留学生向けの就職先の開拓等、本学の特色に応じた支援の実施】 ④学生の多様な希望に応えられるよう就職先の開拓に努める。 ⑤留学生の就職先の開拓に努める。 ⑥3年生を中心に個別指導や就職対策講座を実施するとともに、1、2年生についても就職に関心を持つための取組を行う。 ⑦学外で開催されるキャリア関連の研修やセミナーに積極的に参加し、最新の情報収集と人脈作りに努める。</p> <p>【学生の卒業後調査による就職満足度の確認、就職先の現状把握】 ⑧卒業後調査を実施し、状況把握を行う。</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標) ・企業訪問・来訪数:50社以上(オンラインを含む) ・企業説明会参加企業数:35社以上(オンラインを含む) ・就職率:全国平均以上</p>	1	22
小計			25	22

【ウェイト付けの理由】

「通し番号2」…英語教育は本学の教育の柱の一つであることから、重要な事業と位置付けウェイト2とする。

「通し番号6」…寮教育、感性教育は本学の教育の柱の一つであることから、重要な事業と位置付けウェイト2とする。

「通し番号7」…文理統合型教育の推進は本学の教育の柱の一つであることから、重要な事業と位置付けウェイト2とする。

公立大学法人福岡女子大学 2022年度計画

<p>中期目標 2 研究に関する目標</p>	<p>(1) 特色ある研究の推進 地域の特性や時代の先端を見据え、地域社会及びグローバル社会の発展や大学の特色ある教育に有用な研究を重点的に推進するとともに、地域に根差した研究拠点として、地域社会のニーズを踏まえた実践的な研究に取り組む。</p> <p>(2) 研究の実施体制等の整備 研究活動を更に活性化するため、研究支援体制の充実・強化を図るとともに、国内外の大学、研究機関、企業、行政機関等との連携体制の整備や外部資金の導入を推進する。</p> <p>(3) 研究水準の向上と成果の公表 研究水準の向上を図る取組を推進するとともに、研究成果を積極的に公表し、社会に還元する。</p>
----------------------------	--

中期計画		2022年度計画	2022 ウェイト	通し 番号
項目	実施事項			
<p>1 特色ある研究の推進</p> <p>時代の要請に応じ、地域社会及びグローバル社会の発展や環境問題、食の安全、健康の保持増進に関する研究を推進する。また、文理統合型の研究や地域社会の課題解決に繋がる研究を推進する。</p>	<p>1 【特色を活かした研究の推進】</p> <p>文化及び社会の発展に貢献する研究、環境調和型社会に関する研究、食の安全と健康の保持増進に関する研究など、本学が有する学部学科の特色を活かした研究を推進する。また、文理統合型の研究や男女共同参画社会の促進に関連する研究を充実させるとともに、地域に根ざした大学として地域社会の課題解決に繋がる研究を行う。</p> <p>○学部学科の特色を活かした研究 ○文理統合型の研究 ○男女共同参画社会の促進に関連する研究 ○地域社会の課題解決に繋がる研究</p> <p><評価指標(指標及び達成目標)> ・論文数(査読付き学術誌):年80件以上(単年) ・学会発表等数:年50件以上(単年)</p>	<p>1 【特色を活かした研究の推進】 【学部学科の特色を活かした研究】 ①時代の要請に応じ、地域社会及びグローバル社会の発展や環境問題、食の安全、健康の保持増進に関する研究を推進する。</p> <p>【文理統合型の研究】 ②本学の研究者を中心に、組織の枠を超えた研究の推進及び新たな研究領域の開拓を目指すリサーチコアを推進する。</p> <p>【男女共同参画社会の促進に関連する研究】 ③研究奨励交付金制度を活用し、男女共同参画社会の促進に関連する研究の充実を図る。</p> <p>【地域社会の課題解決に繋がる研究】 ④本学の研究内容・成果を地域に還元するとともに、研究奨励交付金制度を活用し、地域社会の課題解決に繋がる研究の掘り起こしを行う。 ⑤2つのセンター(女性リーダーシップセンター、国際フードスタディセンター)一設置を核にして、本学の特色ある研究分野確立のための企画調査を行う。</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標) ・著書・査読付き論文数:80件以上 ・学会発表等数:50件以上</p>	1	23

中期計画		2022年度計画	2022 ウェイト	通し 番号
項目	実施事項			
2 研究の実施体制等の整備 特色ある研究を推進するため、研究の実施体制を整備し、予算を有効に活用する。また、国内外の大学等との学術交流を促進するとともに、外部研究資金を積極的に獲得する。	1 【研究支援体制の整備】 特色ある研究を活性化するため、一時保育制度や研修制度などの研究支援を推進する。また、研究支援体制として「女性リーダーシップセンター」と「国際フードスタディセンター」を設置し、両センターに関連する研究に対して戦略的に予算配分を行う。 ○一時保育制度や研修制度等による研究支援 ○「女性リーダーシップセンター」の設立 ○「国際フードスタディセンター」の設立 ○研究に対する戦略的な予算配分 <評価指標(指標及び達成目標)> ・両センターの設置:設置	1 【研究支援体制の整備】 [一時保育制度や研修制度等による研究支援] ①教員及び社会人向け受講生への周知方法を工夫・改善して利用の促進を図る。 ②女性研究者の育成と研究環境を整備するため、女性短期海外派遣研修及び研究者支援制度による支援を実施する。 [「女性リーダーシップセンター」の設立] ③女性リーダーシップセンターの機能発揮に向けて、以下に取り組む。 ・教員公募(1名)要項の検討と人選 ・外部委員会の設置 ・国内女子大のトップリーダー人材育成拠点となることを目指し、リーダーシップ、ジェンダー、経営学等に関する研究や、地域課題解決に資する研究を企画する。 [「国際フードスタディセンター」の設立] ④国際フードスタディセンターの機能発揮に向けて、以下に取り組む。 ・教員公募(1名)要項の検討と人選 ・機器等の配置 ・外部委員の人選継続及び委員会の設置 ・食と栄養を通して全ての人の尊厳と幸福を探求する具体的研究を計画する。 [研究に対する戦略的な予算配分] ⑤本学の特色を活かした研究を推進するため、学術研究費のうち研究奨励交付金として配付する割合30%を確保する。また、文理統合型研究の発展、活性化及び女性リーダーシップセンター、国際フードスタディセンターに繋がる研究の推進の為、「福岡女子大学基金」より財源支援を行う。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・「女性リーダーシップセンター」の設置:設置構想の検証 ・「国際フードスタディセンター」の設置:設置構想の検証	1	24

中期計画		2022年度計画	2022 ウェイト	通し 番号
項目	実施事項			
	<p>2 【国内外の大学・研究機関・企業・行政機関との学術交流の推進】</p> <p>教育・研究の一層の充実を図るため、国内外の大学・研究機関・企業・行政機関との学術交流を積極的に推進する。</p> <p>○「ASEAN-EU域内大学コンソーシアム福岡」の枠組みを活用した国際的な研究交流 ○産学官連携による研究交流・共同研究の推進</p> <p><評価指標(指標及び達成目標)> ・国際共同研究件数:年度計画で設定 ・産学官研究交流件数:年5件以上(単年) ・産学官共同研究件数:年15件以上(単年)</p>	<p>1 【国内外の大学・研究機関・企業・行政機関との学術交流の推進】</p> <p>〔「ASEAN-EU域内大学コンソーシアム福岡」の枠組みを活用した国際的な研究交流〕 ①3分野(国際教養、環境、食・健康)の共同研究を推進する。</p> <p>〔産学官連携による研究交流・共同研究の推進〕 ②産学官技術交流会の開催や外部で開催されるセミナーへの参加等、研究交流・共同研究の機会を提供する。 ③東部地域大学(福岡女子大学、九州産業大学、福岡工業大学)連携協定のもと、相互の研究活動を推進するための研究交流・共同研究を支援する。 ④研究機関、企業、行政機関等との連携による共同研究を推進するため、外部機関の情報を入手し、学内に向けて発信する。 ⑤大学HP等による研究シーズ、研究実績の公開方法を工夫・改善し、共同研究等に繋げる。</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標) ・国際共同研究件数:3件 ・産学官研究交流件数:5件以上 ・産学官共同研究件数:15件以上</p>	1	25
	<p>3 【外部研究資金の獲得推進】</p> <p>研究環境の整備と研究の活性化に向け、科学研究費補助金等の研究助成に関する公募情報の周知や応募の促進を図るなどして、外部研究資金の獲得を積極的に推進する。</p> <p><評価指標(指標及び達成目標)> ・外部研究資金[科学研究費]申請件数、獲得件数:申請件数 年55件以上、獲得件数 年25件以上(単年)</p>	<p>1 【外部研究資金の獲得推進】</p> <p>①科学研究費獲得のため、学内セミナーや研修会を開催するとともに、応募に当たっては、過年度採択申請書の閲覧やピアレビューを実施する。 ②研究助成に関する公募状況を周知することで、シーズとなる研究と外部ニーズのマッチングを図る。</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標) ・外部研究資金[科学研究費]申請件数、獲得件数: ・申請件数:55件以上 ・獲得件数:25件以上</p>	1	26
3 研究成果の公表	<p>1 【研究成果の公表と社会への還元】</p> <p>セミナー、講演会、産学官交流会開催等を通じて研究成果を公表することで社会に還元する。また、情報媒体を有効活用し、研究成果や研究シーズを発信する。</p> <p>○セミナー等の開催 ○研究成果物等の発行</p> <p><評価指標(指標及び達成目標)> ・セミナー、講演会、産学官交流会開催:年3件以上(単年)</p>	<p>1 【研究成果の公表と社会への還元】</p> <p>〔セミナー等の開催〕 ①産学官技術交流会や公開講座の開催等により、研究成果や研究シーズを広く公表する。 ②新任・昇任教員等による講演会を実施するなど、大学の知を地域社会と広く共有する。</p> <p>〔研究成果物等の発行〕 ③チラシやパネル展示、大学HP等を活用して、研究成果を地域に発信するとともに、研究成果物の発行数の増加を図る。</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標) ・セミナー、講演会、産学官交流会開催:3件以上</p>	1	27

小計 5 5

【ウェイト付けの理由】

公立大学法人福岡女子大学 2022年度計画

<p>中期目標 3 地域貢献及び国際交流に関する目標</p>	<p>(1) 地域社会への貢献 ア 地域社会との連携 大学の特色を生かして、女性の能力開発やキャリアアップに資する教育プログラムや、県民の生涯学習を推進する公開講座等を実施するとともに、県の各種施策との連携を深め、女性の活躍の推進に貢献する取組を積極的に実施する。 イ 地域活性化への支援 大学が有する人的・物的資源や教育研究成果を地域社会に還元し、地域の諸課題の解決、地域社会の活性化に貢献する。</p> <p>(2) 国際交流の推進 国際化を推進するための体制を充実・強化し、アジアをはじめとする外国の大学等との交流を戦略的に展開する。</p>
------------------------------------	--

中期計画		2022年度計画	2022 ウェイト	通し 番号
項目	実施事項			
<p>1 地域社会との連携</p> <p>大学の特色を生かして、女性のキャリアアップに資する教育プログラムや県民の生涯学習を推進する公開講座等を実施するとともに、県の各種施策との連携を深め、女性の活躍の推進に貢献する取組を積極的に実施する。</p>	<p>1 【女性リーダー育成のための社会人教育の充実】</p> <p>第2期から実施している社会人向け講座等のカリキュラムを、社会からの要請や受講生の実態や要望に対応して見直し、質を高める。また、同窓会、企業、行政、教育機関との連携によりプログラムを拡充して、女性のキャリアアップやリーダー育成のための支援体制を強化する。</p> <p>○社会人女性リーダー育成に向けたプログラム開発と支援 ○同窓会等外部機関との連携強化</p> <p><評価指標(指標及び達成目標)> ・各種講座受講生のアンケート評価:良好評価80%以上(単年)</p>	<p>1 【女性リーダー育成のための社会人教育の充実】 〔社会人女性リーダー育成に向けたプログラム開発と支援〕 ①企業等のトップを目指す意欲のある女性を対象に、「女性トップリーダー育成研修」を内容を刷新した上で実施する。 ②女性のキャリアアップ、女性リーダーの育成に向けて、社会人女性や子育て中の女性等を対象とした「イノベーション創出力を持った女性リーダー育成プログラム」を実施する。 ③他大学やNPO、経済団体等と連携して「女性のためのウェルカムバック支援プログラム」を実施する。</p> <p>〔同窓会等外部機関との連携強化〕 ④社会人女性向けプログラムについて、県、男女共同参画センター、商工団体等外部機関の協力を得て、プログラムを充実させ、広く周知に努める。</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標) ・各種講座受講生のアンケート評価:良好評価80%以上</p>	2	28

中期計画		2022年度計画	2022 ウェイト	通し 番号
項目	実施事項			
	<p>2【知的資源の地域への還元】</p> <p>大学が有する知的資源を活用して地域及び小中高校のニーズに対応した公開講座等を積極的に開催するとともに、教員派遣講座を行う。また、地域に開かれた大学として大学内諸施設の一般開放を拡大し、学外者の利用を促進する。</p> <p>○小中高生への教育支援 ○公開講座の開催 ○図書館・美術館等の学外利用の推進 ○地域に開かれたキャンパスとしての体制整備</p> <p><評価指標(指標及び達成目標)> ・公開講座等受講者のアンケート評価:良好評価80%以上(単年)</p>	<p>1【知的資源の地域への還元】</p> <p>【小中高生への教育支援】</p> <p>①県内の高校に出前講義を案内する。 ②女子高校生を対象に「高校生のためのイングリッシュ・キャンプ」を開催する。 ③近隣中学校・高校との連携の一環として、職場体験学習や学内での特別講習等の受け入れを行う。</p> <p>【公開講座等の開催】</p> <p>④「感性」を学習の柱とし「地域の歴史と伝統」を中心に、大学と地域住民がともに学び合う「生涯学習カレッジ」を実施する。 ⑤本学の教育・研究成果を地域に還元する公開講座を実施する。</p> <p>【図書館の学外利用の推進】</p> <p>⑥大学図書館として学内外利用者の調査・研究活動に供するため、学術雑誌、学術書、参考書等の拡充を目指す。 ⑦学内外に向けた企画展示の充実を図る。 ⑧美術館関連のイベントや公開講座等、地域の方々も参加可能な様々なイベントを実施することで、ラーニング commons の存在を学内外に周知し、利用促進を図る。 ⑨図書館のHP等を活用し、学内外の利用者へ向けた情報発信の充実を図る。 ⑩図書館案内等を複数言語にし、多様な方の利用を促進する。 ⑪学内に向けて利用可能なサービスを周知し、図書館の利用を促進する。 ⑫村上祥子料理研究資料文庫等、卒業生からの寄贈資料等の利用を促進する。</p> <p>【美術館等の学外利用の推進】</p> <p>⑬企画展を年1回以上開催する。 ⑭本学美術館の周知を図るため、「福岡ミュージアムウィーク2022」に参加する。 ⑮地域(福岡県内)の幼保、小学校のほか、高齢者施設などを対象に、美術館ツアー等を実施する。</p> <p>【地域に開かれたキャンパスとしての体制整備】</p> <p>⑯公民館や近隣施設と連携し、大学と地域の交流の場をつくる。 ⑰公民館と適宜情報交換の場を設け、地域のニーズを把握するとともに、「福岡女子大学かわら版」等により大学のイベント等について地域へ周知を図る。 ⑱「地域連携センターニュース」を発行し、地域連携センターの取組について情報発信する。 ⑲新任・昇任教員等による講演会を開催するなど、大学の知を地域社会と広く共有する。[再掲27②]</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標) ・公開講座等受講者のアンケート評価:良好評価80%以上</p>	1	29

中期計画		2022年度計画	2022 ウエイト	通し 番号
項目	実施事項			
2 地域活性化への支援 大学が有する人的・物的資源や教育・研究成果を地域社会に還元し、地域の課題解決や地域社会の活性化に貢献する。	1 【社会や地域が抱える課題解決等に向けた支援】 学生や教職員が地域団体、NPO等と連携して行うボランティア活動(市民活動・まちづくり活動)を支援する。また、活動が円滑に実施できるように地域連携センターを中心に連携支援体制(窓口・マッチング・コーディネート)を整備する。その他、市町村と連携し、幅広い領域で地域の政策課題やまちづくりなどへの助言を行い、シンクタンクとしての機能を果たす。 ○ボランティア活動の支援 ○地域連携支援体制(窓口・マッチング・コーディネート)の整備 ○教育・研究活動等を通じた地域課題に対する支援 <評価指標(指標及び達成目標)> ・地域課題に対する助言(審議会委員、マスコミ取材、個別相談等)件数:年10件以上(単年)	1 【社会や地域が抱える課題解決等に向けた支援】 【ボランティア活動の支援】 ①外部からのボランティア要請について、メール等により学生への情報提供を行う。 ②東部地域大学連携、福岡未来創造プラットフォーム等の地域貢献の取組と併せて、学生のボランティア活動を支援する。 【地域連携支援体制(窓口・マッチング・コーディネート)の整備】 ③地域連携センターを窓口として、近隣公民館等と適宜情報交換し、マッチング・コーディネートを行う。 【教育・研究活動等を通じた地域課題に対する支援】 ④東部地域大学連携や香住丘校区との連携において、地域課題に対する調査・研究活動等を進める。 ⑤「サービスマーケティングプログラム」による地域課題に対する支援とともに、地域が要請する各種会議や研修会等への教員の派遣や助言等の支援を行う。 ⑥古賀市、福津市、宗像市との連携協定のもと、地域が抱える課題に対する調査研究を進める。 ⑦本学が掲げる次代の女性リーダー像と女性リーダーシップセンター構想を示すとともに、国や地域、企業が求める女性リーダー像や、本センターに求められる役割を検証するためのイベントを開催する。 ⑧国際フードスタディセンター構想を示すとともに、地域の抱える食と栄養の課題を把握するために、医療・介護・在宅支援・行政の立場からの意見を聞き、今後の課題解決に向けた連携と、国際フードスタディセンターの担う役割を検証する。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・地域課題に対する助言(審議会委員、マスコミ取材、個別相談等)件数:10件以上	2	30

中期計画		2022年度計画	2022 ウエイト	通し 番号
項目	実施事項			
3 国際交流の推進 グローバル化に対応して国際的に活躍できる人材を育成するため、海外の大学等との交流を充実させ、大学の国際化を推進する。	1 【「ASEAN-EU域内大学コンソーシアム福岡」による交流活動の推進】 本学が形成した「ASEAN-EU域内大学コンソーシアム福岡」により、研究・教育に関する多様な交流活動を行い、大学事業の質を国際的な視点から高めるとともに、世界に開かれた人と知の集積拠点を目指す。また、これにより、国内外での福岡女子大学のプレゼンスを高める。 ○国際共同研究の実施 ○学生、教職員の交流事業の展開 ○海外の高等教育機関に所属する若手女性教員の人材育成プログラムの企画・実施 ○本学若手教職員を対象とした海外トレーニングプログラムの企画・実施 <評価指標(指標及び達成目標)> ・国際共同研究件数[再掲]: 年度計画で設定	1 【「ASEAN-EU域内大学コンソーシアム福岡」による交流活動の推進】 【国際共同研究の実施】 ①3分野(国際教養、環境、食・健康)の共同研究を推進する。[再掲25①] 【学生、教職員の交流事業の展開】 ②国際共同教育(CASEUFサマープログラム、EATプログラム)を実施する。コロナ禍により留学生受入れ不可の場合は、オンライン開講等により教育形態の多様化を図る。[再掲5②] ③コンソーシアム参加大学の教職員との交流を促進する。 【海外の高等教育機関に所属する若手女性教員の人材育成プログラムの企画・実施】 ④学術交流協定校を中心とする大学の協力により、若手研究者(大学院生を含む)の人材育成を推進する。 【本学若手教職員を対象とした海外トレーニングプログラムの企画・実施】 ⑤若手教職員の能力開発を目的とした海外トレーニングプログラムを実施する。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・国際共同研究件数[再掲25]: 3件	1	31
	2 【海外大学との交流促進及び留学生の受入】 海外有力大学との交流を充実・促進する。海外有力提携大学から優秀な留学生を受け入れ、短期留学プログラムを実施・拡充する。 ○提携大学との継続的交流と質的深化 ○国際シンポジウム・セミナー開催や学生・教職員の国際学会参加への支援 ○短期留学生受入プログラムの実施・拡充 <評価指標(指標及び達成目標)> ・海外大学との学生・教職員の交流事業: 年間1事業以上(単年) ・短期受入留学生数[再掲]: 年35名以上(単年)	1 【海外大学との交流促進及び留学生の受入】 【連携大学との継続的交流と質的深化】 ①海外有力大学との学生交流を促進する。 ②国際共同教育プログラム(CASEUFサマープログラム、EATプログラム)等の交流機会を創出し、提携大学との協力関係の維持と質的深化を図る。 【国際シンポジウム・セミナー開催や学生・教職員の国際学会参加への支援】 ③国際高等教育研修等への若手教職員の派遣を促進する(オンラインを含む)。 ④国際会議等への学生の参加を支援する(オンラインを含む)。 【短期留学生受入プログラムの実施・拡充】[再掲5①②③] ⑤WJCの参加大学の多様化を図る。コロナ禍により留学生受入れ不可の場合は、WJC科目のオンライン開講等により教育形態の多様化を図る。 ⑥国際共同教育(CASEUFサマープログラム、EATプログラム)を実施する。コロナ禍により留学生受入れ不可の場合は、オンライン開講等により教育形態の多様化を図る。 ⑦プログラムの検証、改善を行う。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・海外大学との学生・教職員の交流事業: 1事業以上 ・短期受入留学生数[再掲5]: ・受入可能となった場合: 35名以上 ・受入不可の場合: オンライン開講科目受講者数35名以上	1	32

中期計画		2022年度計画	2022 ウェイト	通し 番号
項目	実施事項			
	<p>3 【派遣留学等の推進】</p> <p>充実した海外派遣留学プログラムの実施により、日本人学生に海外大学の教育を享受する機会を提供し、国際感覚と異文化理解力を醸成する。また、海外有力大学から受け入れる留学生との交流機会を提供し、世界各国の優秀かつ多様な学生と共に切磋琢磨して学ぶ環境を充実させるとともに、ICTによる情報発信の強化等により参加を促進する。</p> <p>○短期海外留学プログラム(交換留学・体験学習・語学研修)の実施・拡充 ○派遣留学生等に対する支援の充実・強化 ○学内での海外留学体験プログラムの実施・拡充 ○JD-Matesプログラムによる外国人留学生との交流の実施・拡充 ○イングリッシュ・ビレッジ(留学生と共に参加する英語合宿)の実施・拡充</p> <p><評価指標(指標及び達成目標)> ・海外派遣(交換留学・語学研修・体験学習等)学生数[再掲]:年120名以上(単年)</p>	<p>1 【派遣留学等の推進】</p> <p>【短期海外留学プログラム(交換留学・体験学習・語学研修)の実施・拡充][再掲5④⑤⑥]</p> <p>①学生交流協定に基づく交換留学(派遣)を推進する。コロナ禍により学生を派遣できない場合は、協定校等がオンラインで実施する教育プログラムや国際会議等への参加を推進する。 ②短期語学文化研修及び海外体験学習を実施・拡充する。コロナ禍により学生を派遣できない場合は、協定校等がオンラインで実施する教育プログラムや国際会議等への参加を推進する。 ③学生に対し、海外留学に関するきめ細かなサポートを提供する(情報提供、留学相談、指導等)。</p> <p>【派遣留学生等に対する支援の充実・強化】</p> <p>④外部奨学資金の獲得に精力的に取り組み、学生の海外渡航を支援する。 ⑤基金等を原資とする交換留学支援制度及び語学研修・体験学習支援制度を周知し、協定校等への渡航と協定校等が提供するオンライン教育の享受を支援する。 ⑥休学を伴わない私費留学を可能とする認定留学制度により、学生の海外留学機会を拡大する。 ⑦留学相談を随時実施する。 ⑧交換留学準備のためのTOEFL及びIELTSの情報及び受験機会を提供する。 ⑨学内での海外留学体験プログラム(CASEUFサマープログラム、イングリッシュ・ビレッジ等)への参加を促進する。 ⑩危機管理体制を強化し、海外派遣学生の安全確保を図る。</p> <p>【学内での海外留学体験プログラムの実施・拡充][再掲5⑦⑧]</p> <p>⑪CASEUFサマープログラム等により、外国人留学生と日本人学生が共学する環境を創出する。コロナ禍によりプログラムを実施できない場合は、協定校等がオンラインで実施する教育プログラムや国際会議等への参加を推進する。 ⑫WJC科目(英語を教育言語とする)を在学学生に開放し、履修を奨励する。コロナ禍によりWJCを通常通り実施できない場合は、オンラインで開講するWJC科目の履修を奨励する。</p> <p>【JD-Matesプログラムによる外国人留学生との交流の実施・拡充][再掲5⑨]</p> <p>⑬外国人留学生との交流を促進し、在学学生の異文化適応力を醸成する。</p> <p>【イングリッシュ・ビレッジ(留学生と共に参加する英語合宿)の実施・拡充][再掲5⑩⑪]</p> <p>⑭年2回(前期・後期)実施する。(対面で実施できない場合は、オンラインとする。) ⑮内容の検証、改善を行う。</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標) ・海外派遣(交換留学・語学研修・体験学習等)学生数[再掲5]: ・派遣可能となった場合:120名以上 ・派遣不可の場合:学内実施事業(留学説明会、留学相談会及びオンライン海外研修等)の参加者120名以上</p>	1	33
小計			8	6

【ウェイト付けの理由】

「通し番号28」…女性リーダー育成のための社会人教育は本学の地域貢献事業の柱の一つであることから、重要な事業と位置付けウェイト2とする。

「通し番号30」…社会や地域が抱える課題解決等に向けた支援は本学の地域貢献事業の柱の一つであることから、重要な事業と位置付けウェイト2とする。

公立大学法人福岡女子大学 2022年度計画

<p>中期目標 4 業務運営の改善及び効率化に関する目標</p>	<p>(1) 大学運営の改善 学術研究の進展や社会及び地域情勢の変化に的確に対応するため、教育研究組織や学内資源配分を恒常的に見直し、理事長のリーダーシップの下、自主性・自律性を生かした活力ある大学運営を行う。また、多様な人材を確保・育成するとともに、教職員の意欲向上を図るため、能力と業績を適正に評価する。併せて、スタッフ・ディベロップメント等の取組を推進し、複雑化・専門化する大学運営の充実を図る。</p> <p>(2) 事務等の効率化・合理化 継続的な業務見直しや事務体制の見直し等により、事務等の効率化・合理化を図る。</p> <p>(3) 社会的責任・安全管理の徹底 人権尊重、法令遵守の徹底など、公立大学法人としての社会的責任を果たすとともに、学生と教職員の健康の確保や事故、犯罪、災害等の未然防止、情報セキュリティ対策などの安全管理に万全を期す。また、事故等が発生した場合に迅速に対処できる危機管理体制を確立する。</p>
--------------------------------------	--

中期計画		2022年度計画	2022 ウェイト	通し 番号
項目	実施事項			
<p>1 大学運営の改善</p> <p>教育・研究活動及び社会貢献活動の更なる充実を図るため、大学に求められるニーズの変化に対応できる体制を構築する。また、教職員のモチベーションの維持向上や大学運営の活性化を図るため、人事評価を適正に実施する。併せて、教員、事務職員ともに戦略的採用を行う。</p>	<p>1 【教員組織や委員会組織の見直し】</p> <p>理事長のリーダーシップの発揮とガバナンス体制の強化や学科の枠を超えた教育・研究活動等の充実を図るため、教員組織や委員会組織の見直しを行い、柔軟な運営体制を築く。</p> <p>○教員組織の見直し ○委員会組織の見直し</p>	<p>1 【教員組織や委員会組織の見直し】</p> <p>【教員組織の見直し】</p> <p>①共通教育機構のみに所属していた教員を各学科に配置する新たな教員組織を運用し、付随する問題点を確認する。また、新たに発足する3センター(女性リーダーシップセンター、国際フードスタディセンター、言語教育センター)に配置するセンター専任教員に係る諸制度の問題の有無を確認する。</p> <p>【委員会組織の見直し】</p> <p>②2019年度に実施した委員会調べの結果と2021年度に整理した各委員会・部会等の一覧をもとに、委員会・部会の統廃合を検討する。</p>	1	34
	<p>2 【人事評価の実施・改善】</p> <p>教職員個人の成長や意欲向上と同時に組織の成果を増大させるため、評価制度の継続的改善を行う。また、教職員のモチベーション維持・向上のため、各種制度の導入やキャリアパスの策定を行い、人材育成を図る。</p> <p>○教員個人業績評価制度の実施・改善 ○テニュア・サバティカルの導入検討 ○事務職員人事評価制度の実施・改善 ○職員のキャリアパス策定</p>	<p>1 【人事評価の実施・改善】</p> <p>【教員個人業績評価制度の実施・改善】</p> <p>①評価要領を適切に運用し、客観的な判断を行う。2021年度の検討結果を踏まえ、より客観的な評価制度への検討を進める。制度の検討にあたっては、引き続き関係教職員が連携しながら進めていく。</p> <p>【テニュア・サバティカルの導入検討】</p> <p>②2021年度から導入した任期の定めのない教員への移行制度を適切に運用し、制度設計に不備がないか点検する。</p> <p>③教員個人業績評価制度とその他の学内制度の進捗を考慮しながら、サバティカル制度の具体的な内容を検討する。</p> <p>【事務職員人事評価制度の実施・改善】</p> <p>④職員のインセンティブ向上に資するよう、評価結果の給与反映を行うとともに、面談(期首・中間・評価)等を有効に活用して上司と部下の円滑なコミュニケーションを促進し、組織の活性化、職員の成長に繋げる。</p> <p>⑤現行の事務職員人事評価制度が、適正な評価及び被評価者の意識向上に資するものであるか、改善すべき点が無いか確認する。</p> <p>【職員のキャリアパス策定】</p> <p>⑥2021年度の検討結果を踏まえ、具体的なキャリアパスの策定、人材育成制度の整備を検討する。</p>	1	35

中期計画		2022年度計画	2022 ウェイト	通し 番号
項目	実施事項			
	<p>3 【教職員の戦略的採用】</p> <p>教員の採用については、中長期的かつ将来構想に沿った全学的な人事方針を策定し、客観性・透明性・公平性を確保したうえで実施する。事務職員については、第2期中期計画に引き続き計画的なプロパー化を図るとともに、多様な働き方を実現する。</p> <p>○全学的な人事方針の策定 ○教員昇任制度の検証 ○職員のプロパー化 ○多様な働き方の実現に向けた取組</p>	<p>1 【教職員の戦略的採用】</p> <p>〔全学的な人事方針の策定〕 ①教育研究の質の向上（英語教育の充実を含む）を図るため、年度当初に当該年度の採用計画を策定した上で、広く国内外から英語での授業運営能力を有する優れた教員を採用するとともに、FD研修等を通して大学の理念及び目的の実現に貢献する意欲的な教員を育成する。</p> <p>〔教員昇任制度の検証〕 ②2021年度に策定・運用した昇任制度を検証し、問題点が見つかれば改善を図る。</p> <p>〔職員のプロパー化〕 ③意欲的な職員を育成し業務の専門性及び継続性を担保するため、正規・非正規の職員の構成比を引き続き検討し、必要に応じて採用試験等を実施する。</p> <p>〔多様な働き方の実現に向けた取組〕 ④子育て及び介護世代等のワーク・ライフ・バランスの改善及び感染症等への対応に備えて、恒常的な在宅勤務制度を導入する。</p>	1	36
	<p>4 【円滑な組織運営のためのSDの実施】</p> <p>教職員の能力向上や意識改革のため、SD(スタッフ・ディベロップメント)を実施するとともに外部研修等への参加を促進する。</p>	<p>1 【円滑な組織運営のためのSDの実施】</p> <p>〔全教職員対象のSD〕〔再掲15〕 ①年間の研修計画を立て、計画的に実施する。 ②全教職員を対象とする研修及びテーマや対象者を絞り個別課題に対応する研修を実施する。</p> <p>〔事務職員対象のSD〕 ③職員の能力向上を図るための学内研修会の実施や外部研修への参加を促す。</p>	1	37
2 事務等の効率化・合理化	<p>1 【業務見直しや事務局体制の再編等】</p> <p>効率的・合理的な事務執行のため、継続的に業務見直しを行うとともに事務局体制の再編等を実施する。</p> <p>○継続的な業務見直し ○事務局体制の再編・検証</p>	<p>1 【業務見直しや事務局体制の再編等】</p> <p>〔継続的な業務見直し〕 ①教職員より、業務見直しに関する提案を募集し、全学的な意識付けを行う。</p> <p>〔事務局体制の再編・検証〕 ②3センター(女性リーダーシップセンター、国際フードスタディセンター、言語教育センター)を運用し、体制等の点検を行う。</p>	1	38
	<p>2 【教職協働の推進】</p> <p>大学の円滑な運営の実現や多様なニーズに対応するため、教員と事務職員が協働しながら業務を遂行できる環境を整備する。</p>	<p>1 【教職協働の推進】</p> <p>①教職協働の意識付けや能力養成を目的とした教職員向けの研修を行う。 ②教職協働の取組として、教育・研究・地域貢献・国際化・大学運営活性化のためのユニークな取組を実施する。</p>	1	39

中期計画		2022年度計画	2022 ウェイト	通し 番号
項目	実施事項			
3 社会的責任・安全管理の徹底 人権尊重・法令遵守の徹底を図り、大学の社会的責任を果たす。また、個人情報保護や情報セキュリティ対策などの安全管理体制を確立するとともに、災害等発生時に迅速かつ適切に対応できるような危機管理体制を確立する。	1 【社会的責任・安全管理の徹底】 各種規程等を整備・点検し、人権尊重・法令遵守の徹底を図るなど、大学の社会的責任を果たす。また、学生や教職員の安全を確保するため、個人情報保護や情報セキュリティ対策を徹底するとともに学内での安全管理のため定期的に研修・訓練等を実施し、災害等発生時に迅速かつ適切に対応できる体制の確立と教職員の意識向上を図る。 ○人権尊重、法令遵守の徹底 ○安全管理、危機管理体制の確立	1 【社会的責任・安全管理の徹底】 【人権尊重、法令遵守の徹底】 ①人権尊重意識向上のため、研修等を実施する。 ②法令遵守の徹底のため、必要に応じて規程整備や学内説明会等を実施する。 【情報セキュリティ対策】 ③教職員及び学生に対して、情報セキュリティに関する最新事例を踏まえた啓発や注意喚起を実施する。 ④ネットワーク可視化システムにより、セキュリティリスクを監視し、情報セキュリティインシデントの発生及び拡大を防止する。 ⑤情報セキュリティ対策規程に基づく対策基準に関する規則等の整備を行う。 【安全管理、危機管理体制の確立】 ⑥安全マニュアル等を整備し、安全教育に活用する。 ⑦職場巡視を定期的実施し、施設等の点検活動を通じ、安全な研究・職場環境の改善改修等に役立てる。	1	40

7 7

【ウェイト付けの理由】

公立大学法人福岡女子大学 2022年度計画

中期目標 5 財務内容の改善に関する目標	(1) 財政基盤の強化 教育研究活動等の活性化のため、外部資金の獲得等による自己収入の増加を図り、財政基盤を強化する。また、資産を適正に管理し、財産の有効活用を図るとともに、資金の安全確実な運用を行う。 (2) 経費の節減 大学の運営が公的資金に支えられていることを踏まえ、経営者の視点に立って、適正な予算執行を進めるとともに、業務の効率化により、経費の節減を図る。
-------------------------	--

中期計画		2022年度計画	2022 ウェイト	通し 番号
項目	実施事項			
1 財政基盤の強化 教育・研究活動を活性化するため、科学研究費補助金をはじめとする外部資金の獲得等による自己収入の増加を図る。また、資産を適正に管理し、保有財産を有効活用する。	1 【外部資金の獲得等による自己収入の増加】 科学研究費補助金に関する説明会を実施するなど全学的な取組を推進し、教育・研究を中心とする各種外部資金の積極的な獲得による自己収入の増加を図る。 <達成目標> ・外部資金獲得金額：年9,000万円以上(単年)	1 【外部資金の獲得等による自己収入の増加】 ①研究助成に関する情報を学内教員に周知することで、シーズとなる研究と学外ニーズとのマッチングを図り、外部資金獲得を促す。 ②科学研究費の獲得支援措置として、採択申請書の閲覧やピア・レビューを実施するとともに、学内教員向けに科学研究費補助金等に関するセミナーを開催し、外部資金獲得を目指す。 ③研究成果のパネル展示や大学HPを活用して地域社会に情報発信し、外部資金の獲得に繋げる。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・外部資金獲得金額：9,000万円以上	1	41
	2 【資産の適正管理】 資産を適正に管理し、学外への利用促進を行うなど財産の有効活用を図る。また、余裕資金については安全確実かつ効率的な運用を行う。	1 【資産の適正管理】 ①財務会計システムを活用した現物確認を行い、適切な資産管理を実施する。 ②コロナ禍等を勘案しつつ、学外者による施設利用を検討する。 ③余裕資金の効率的な運用を図るため、安全性が高いと考えられる譲渡性預金、債券等の情報を複数の金融機関から聴取し、最も条件の良い金融資産の活用を検討する。 ④毒劇物の管理状況について適宜チェックする。	1	42
2 経費の節減 学内予算の適正な配分及び執行管理により財源の有効活用を推進するとともに、業務効率化等により経費節減を図る。	1 【学内予算の適正な配分及び執行管理】 限られた財源を有効に活用するため、継続的に業務見直しを行うとともに予算の適正な配分方法及び執行管理について検討・実施・改善を図る。	1 【学内予算の適正な配分及び執行管理】 ①限られた財源を有効活用し、必要経費を適正に予算配分する。 ②予算の執行状況につき、年度の中間時点において確認・分析する。	1	43
	2 【人件費の適正化や業務効率化による経費節減】 人員配置の見直しを検討するとともに、中長期的かつ将来構想に沿った全学的な人事方針に基づく採用により、人件費の適正化を図る。また、事務処理の効率化や施設の有効活用等による経費節減を推進するとともに、省エネルギー化に努める。 ○人件費の適正化に向けた取組 ○経費節減及び省エネルギー化	1 【人件費の適正化や業務効率化による経費節減】 【人件費の適正化に向けた取組】 ①定数内の全体のバランス(職位や年齢等含む)を考慮した当該年度の採用計画を策定した上で、採用に取り組む。 ②各部署における月ごとの残業時間を把握し、必要に応じて業務遂行の合理化を行うことで、ワーク・ライフ・バランスに配慮し、時間外手当等の人件費抑制に取り組む。 【経費節減及び省エネルギー化】 ③デマンド制御等を活用し、電気やガスの使用量が、コロナ禍ではなかった2019年度実績を下回るよう努める。	1	44
小計			4	4

【ウェイト付けの理由】

公立大学法人福岡女子大学 2022年度計画

<p>中期目標 6 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標</p>	<p>(1) 自己点検・評価 教育、研究その他大学運営全般の自己点検・評価を厳正に実施するとともに、福岡県公立大学法人評価委員会の評価及び認証評価機関の評価を受け、その結果を公表し、大学運営の改善に速やかに反映させる。</p> <p>(2) 情報公開・広報 公立大学法人としての社会への説明責任を果たし、広く県民の理解を得るため、大学情報を積極的に公開するとともに、効果的な広報を展開し、大学の存在感を高める。</p>
--	---

中期計画		2022年度計画	2022 ウェイト	通し 番号
項目	実施事項			
<p>1 自己点検・評価</p> <p>教育研究活動等、大学運営全般について自己点検・評価を実施するとともに、福岡県公立大学法人評価委員会の評価及び認証評価機関の評価を受け、評価結果を公表する。また、評価結果は速やかに大学運営の改善に反映させる。</p>	<p>1 【自己点検・評価の実施・改善及び外部評価結果の活用】</p> <p>自己点検・評価を厳正に実施し、大学運営の改善を図るとともに評価結果を公表する。また、自己点検・評価体制の検証・改善を図る。外部評価については、福岡県公立大学法人評価委員会の評価及び認証評価機関等の評価を受け、大学運営の改善に活用するとともに評価結果を速やかに公表する。</p>	<p>1 【自己点検・評価の実施・改善及び外部評価結果の活用】</p> <p>【自己点検・評価の実施・改善及び外部評価結果の活用】</p> <p>①年度の中間時点及び年度末に年度計画に対する実績を確認する。 ②福岡県公立大学法人評価委員会による評価を受け、自己点検・評価の結果とともに公表する。 ③実績や評価の結果を自己点検・評価委員会で検証し、大学運営を改善する。</p> <p>【学生意識調査の実施・活用】</p> <p>④全学生を対象に学生意識調査を実施する。また、調査結果を分析し、大学運営の改善に繋げる。</p> <p>【認証評価機関による評価】</p> <p>⑤認証評価機関による評価を受審する。</p>	1	45
<p>2 情報公開・広報</p> <p>大学の教育・研究活動や中期計画・年度計画等の法人情報をホームページ等を通じて公開することで社会的責任を果たすとともに、大学広報に積極的に活用する。</p>	<p>1 【大学情報の公開】</p> <p>公立大学法人としての透明性を高め、ステークホルダー（学生・保護者・地域社会・企業・教職員等）の信頼を得るために、教育・研究活動や法人情報等を積極的に公開する。</p> <p>○法人・大学の各種情報の積極的な公開 1.ホームページの見やすさ、わかりやすさの工夫 2.動画やSNSなどの効果的な活用を検討 ○法人・大学情報のデータベース化</p>	<p>1 【大学情報の公開】</p> <p>【法人・大学の各種情報の積極的な公開】</p> <p>①ステークホルダーに対して大学HPが見やすいもの・わかりやすいものになっているか点検し、改善する。 ②閲覧数の少ないページを改善し、本学の情報発信を強化する。 ③Youtubeで公開しているPR動画を改修し、ステークホルダーに向けてPRする。</p> <p>【法人・大学情報のデータベース化】</p> <p>④データベースに登録するデータの拡充や既存データのメンテナンス（更新、統合、項目の追加等）を実施する。 ⑤「IRニュース」を2回以上発行する。 ⑥学内で実施されるオンラインでのアンケート調査について、アンケートフォームの作成、データの収集、データベース化、レポート作成までの一連の作業を自動化する仕組みを検証し、必要に応じて改良する。 ⑦内部質保証の実施記録をデータベース化する仕組みを構築するための準備を行う。</p>	1	46
	<p>2 【大学広報の推進】</p> <p>広範的視点から大学の情報（教育・研究活動や法人情報等）をステークホルダー（学生・保護者・地域社会・企業・教職員等）に対し積極的に公開すると同時に、大学のブランディング戦略をさらに推進し大学のプレゼンスを高める。</p> <p>○大学情報の広報活用 1.情報発信力の強化・多様化 ○国内外における大学ブランドの浸透 1.マスメディアの活用 2.マーケティング（強みの認識、客観的評価を知る） 3.VI戦略の推進 ○大学内におけるUIの徹底</p>	<p>1 【大学広報の推進】</p> <p>【大学情報の広報活用】</p> <p>①大学HP、ブログサイトを活用し、教育・研究活動などの情報発信を強化する。 また、広報誌ではステークホルダーに向けた企画を展開する。</p> <p>【国内外における大学ブランドの浸透】</p> <p>②企業（首都圏を含む）からの認知度を高めるため、マスメディア等を活用した大学ブランドの浸透・定着を図る。 ③関係部署が連携して、2023年の創立100周年を広報素材として積極的に活用する。</p> <p>【大学内におけるUIの徹底】</p> <p>④UIマニュアルの内容の見直しを行い、全教職員に向けて配付する。</p>	1	47

小計 3 3

【ウェイト付けの理由】